

イノベーションの取り組み

OKIは、国際規格ISO56002を先取りしたイノベーション・マネジメントシステム(IMS)「Yume Pro」を構築し、「全員参加型イノベーション」を全社展開しています。2023年度からは実践モードのイノベーション活動として本格運用し、マテリアリティに掲げた「価値を創出し続ける企業文化への変革」を加速するとともに、将来事業の創出、グローバル展開にチャレンジします。

全員参加型イノベーションの加速

OKIは2017年に「Yume Pro」の構築を開始、2020年には「IMS Ready」な会社となることを宣言して、全員参加型イノベーションによる価値創出に向けた規程の整備やイノベーション教育の強化などを進めています。新規ビジネスを持続的に創出するための仕組みとして、ビジネスアイデアコンテスト「Yume Proチャレンジ」を2018年から毎年実施し、2022年度はグループ全体から319件の応募がありました。提案テーマから、「Yume Pro」で定めるプロセス(Yume Proプロセス)に則った活動により商品化を実現した事例も出始めています。経営陣と社員の直接対話「イノベーション・ダイアログ」に加え、2022年からは少人数でより深い課題に切り込む

「イノベーション・未来トーク」を新設し、延べ1,314名が参加しました。また情報展開のための「Yume Proフォーラム」には延べ9,501名が参加しています。2022年度のイノベーション基礎研修受講者は9,735名に達するなど、イノベーションの実践に向けた企業文化改革は着実に進展しています。中期経営計画2025ではこのプロセスに則って活動した成果を、「将来事業の創出に向けた新規領域」として掲げました(次項参照)。これらの領域における提供価値の実現や、さらなる価値の拡大に向けた具体化とともに、2023年からは業務プロセスの変革に着目した取り組みも進め、実践モードのイノベーション活動を加速していきます。

